新年度に向けて「ゆめじゅく会」定期総会開かれる

３月１５日（金）午後7時より、今年度の「ゆめじゅく会」定期総会が開催された。今年度の活動報告、新年度の活動計画、新役員の選出等が承認された。瀬戸会館を会場として研修及び文化活動を進める団体は年を追うごとに増え、今年度は、延べ人数で約12，600人余に利用されている。一人でも多くの人が瀬戸会館に集い、語り合い、高め合いながら交流を図っていくことが相互理解の第一歩。互いが尊重される社会づくりを目指して、地元自治会のご支援を得ながら、平成25年度も一層充実した取組みを進めたいと考えています。どうかよろしくお願いいたします。

瀬戸会館だより
平成２５年4月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7－30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
TEL０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

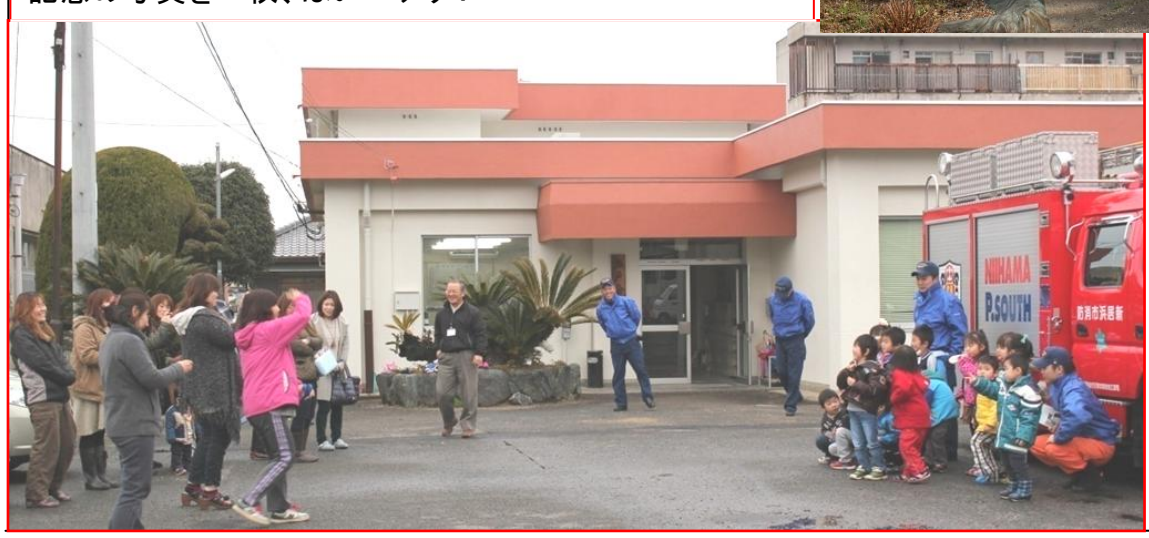
火災の避難訓練

２月１９日（火）は瀬戸児童館と共同で標記の訓練を予定していたが、この日は朝からの雨で、その上気温がとても低かった。急きょ室内でのお勉強に変更。当館一階の部屋で5歳児13人が前の席を占め、保護者、先生、当館職員らが消防士さんから話を聞く。

担当の消防士さんはいろんな場面を描いたパネルを示しながら、「これは何かな？」と尋ねると「救急車！」と児童が一斉に答える。「何をする車？」、「人を運ぶー」。「どんな人？」、「けがをした人、死んだ人」。「これは？」、「火事！」。「家から何が出てますか？」、「火！、煙！」。「これ何しよる？」、「電話しよる」。「電話しながら、何しよる？」、「お料理しよる」・・と巧みに話が構成されている。「これどうしとる？」、「しゃがんどる」。「煙ねえ、上へ上へあがるからね、背低くして動くんよ」との話に児童たちは大きくうなずいていた。

消防士さんはさらに、保護者に向かって「火災は放火以外は不注意からです」、「消火器は15秒しか使えません」、「3～6メートルしか飛びません」、「炎にかけずに、燃えているモノにかけましょう」と語りかけ、「天ぷら油には水はダメです。壁など一面に火が広がりますから！」と念を押す。児童にも、保護者にとっても勉強になるお話でした。

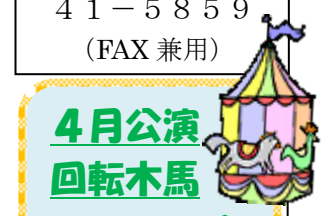
いつの間にか雨は上がり、消防車のまえで児童たちは記念の写真を一枚、はいパチリ！



各自治会―新年度に向けて―

年度替りということもあり各地で自治会が開かれている。3月16日（土）は瀬戸会館に中央自治会の皆さんが集まり、新自治会長には山田秀樹さん、組長は1組が古川久満太さん、2組が山田幹男さん、会計には早野定男さんが選ばれた。また、出席者から街灯の不具合が相談され、帰途新旧役員3名が街灯点検に廻られた。

同じ日に中組自治会も開かれ、松田眞理子さんが新自治会長に選出され、会計も兼務されるとか。22日（金）は西恵比須自治会、24日(日)は日の出自治会の会合が予定されている。



4月公演
回転木馬
おはなし会
4月25日予定
10:00~11:00
瀬戸児童館

春のプレゼント届く
～泉川小学校4年生児童から～

4月の主な行事予定

3日・17日（水） ― 移動図書館
11日（木） ― 人権のつどい日
19:30~21:00 瀬戸会館
DVD「おーい！」の視聴と話合い
月2回（木） ― 絵本・紙芝居 お話し会
泉川小学校放課後児童クラブ
２６日（金） ― 第１回人権・同和教育主任会・合同部会（文センン）

人権あらかると

ワンデイホームステイ（２）

～偏見をなくす試み～

辛（しん）　淑玉（すご）（人材育成コンサルタント）

また、ホームステイに先立って、人権をテーマにした事前研修会『クイズウルトラ人権100問』も開催し、さまざまな問題に挑戦した。

多くの方の協力があったがはじめての試みということもあり、準備は大変だった。ホームステイの受け入れ先は、直前まで二転、三転した。50～60人の外国籍住民の方と交渉したのだが、「日本人への不信感があって家族の了解が得られない」「交流したいけど準備が出来ない」「知らない人を泊めるのは不安」といった理由で断られることが多かった。いったん決まったのにキャンセルされることもしばしばだった。

参加者にとっては、この一泊二日はとても有意義だったようだ。感想をいくつか紹介しよう。「非常に内容の濃い話が出来た。私のこれからの人生に、必ず、この経験は貴重な糧となって役立つと思う。」（女性）、「この経験は私にとって生涯の財産のように思う。そして、まだ残る差別をこれから皆に伝えていきたいと思う。早くなくせたらいい。本当に楽しかった」（愛媛から参加の中学生）。ホストからは「今回の一番いいところは、大きなスケールじゃなく、『小さい』人と人との触れ合いから始まったことだと思います」（アメリカ、女性）、「みんなの笑顔をみて、本当に嬉しい！中日の友好はずっと続くと信じています」（中国、女性）など。

いっしょにご飯を食べ、話しをし、風呂に入り、同じところで寝る。こんなシンプルで当たり前の、たった一日の行動が、大きな実りをもたらしている。　辛淑玉『怒りの方法』（岩波新書）より　都合で一部割愛させてもらいました

第3回　社会教育部会開く

愛媛県人権教育協議会新居浜支部の社会教育部会が3月12日（火）市庁舎で開かれた。市内の公民館、自治会、婦人会、老人クラブ、PTA、民生児童委員等の代表者が参加したこの会は、新居浜市人権擁護委員坂上禧規さんの講演から始まった。「みすずに学ぶ人権」と題したこの講演は、詩人金子みすずの幾つかの詩を紹介して『星とたんぽぽ』から心、やさしさ、つらさを語り、『私と小鳥と鈴と』からは偏見や差別が生まれる「縦の比較」という視点を示された。

講演のあと議題に移り、事務局から平成24年度のお茶の間人権教育懇談会や講座の実施状況について報告があった。次いで新年度の社会教育部事業計画を提案、承認された。

「人権のつどい日」にひろう

「人権のつどい日」が開かれた3月11日（月）、新聞・テレビ等は朝から2年目を迎えた東日本大震災の話題が続く。つどいでは司会の人権啓発指導員三原　昇さんから、用意された資料にそって平成24年度全人同教で「灯した炎を燃やし続けたい」のテーマで発表された早瀬尚子さんの特別報告や中学生二人の人権作文が紹介された。

そのあとDVD『虎ハ眠ラズ』を視聴。話は在日朝鮮人とハンセン病という二重の差別を受けながらも人権運動に取り組む金恭九（キムテグ）さんに、18歳の少女が問いかける形で展開する。視聴後の意見交換では、画面から聞こえた金さんの「正しく知り、正しく行動することが大事」という言葉をめぐって、「単に正しいことを知っているだけではだめだと、それはおかしい、こうでしょときちんと言えなければ差別はなくならない。それが正しく行動することに」、「知らないために、知ろうとしなかったために、私たちが傍観者でいたためにハンセン病問題の解決が長引いたのでは」など話が続いた。

希望を胸に学び舎を巣立つ

“十五の春”、希望と不安を胸に新たな一歩を踏み出す中学生。3月15日、泉川中学校の卒業式が行われた。校長先生の式辞では、「自分の生きる値打ちを探しつつ、何事にも挑戦する気概をもって、自分らしい花を咲かせるために生きていってほしい」。来賓祝辞では、「皆さんを育んできたこの泉川地域。人々が支え合うこの素晴らしい故郷に誇りをもって生きていってほしい」。在校生の送辞では、「学校生活の様々な場面で、いたわりの心をもって導いていただきありがとう」と先輩への感謝の言葉が涙とともに語られた。卒業生答辞では、「多くの思い出を糧として力強く生きていきます。私たちの成長を導いてくださった多くの方々に、心より感謝いたします。」と一語一語かみしめながら、堂々とした態度で語られる新しい旅立ちへの思いは、満場の人々の心に響いた。

式を通して常に会場には音楽が流れ、歌唱はどれも混声合唱の豊かなハーモニーに満ちていた。卒業生、在校生の思いが響き合う実に爽やかで感動的な素晴らしい式であった。卒業生には、どうか、たくましく大きく育ってほしいと願わずにはいられない。